



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロット」

株式会社ロッテ
2024年9月20日(金)

サステナビリティブック2024 2種を公開

新サステナビリティ目標「ロッテ ミライチャレンジ 2048」を発表

株式会社ロッテ（代表取締役社長執行役員：中島英樹）は、このたびサステナビリティブック2種（サステナビリティコミュニケーションブック2024、サステナビリティデータブック2024）を公開し、創業100周年となる2048年に向けた新サステナビリティ目標「ロッテ ミライチャレンジ 2048」を発表しました。



サステナビリティコミュニケーションブック2024



サステナビリティデータブック2024



■新サステナビリティ目標：ロッテ ミライチャレンジ 2048

「ロッテ ミライチャレンジ 2048」は、2048年のありたい姿をサステナビリティビジョンとして整理し、それを実現するためにバックカastingで目標を設定しています。このビジョンと目標の検討にあたっては、実際にその時代を支える世代の視点が重要と考え、若手から中堅の社員による社内横断のプロジェクトチームを組成して議論しました。



創業100周年までに、未来のために実現したいこと

・サステナビリティコミュニケーションブック2024

サステナビリティビジョンと新サステナビリティ目標「ロッテ ミライチャレンジ 2048」について、策定の意図や議論の過程などのストーリーを掲載し、詳しく解説しています。

・サステナビリティデータブック2024

当社の未来財務情報（非財務情報）をESG（環境、社会、企業統治）の観点で整理し、網羅的に掲載しています。また、TNFD*1提言にもとづいて自然関連財務情報の2023年度は国内外グループの製造拠点に対してLEAPアプローチ*2を用いて評価を実施しました。



*1 自然関連財務情報開示タスクフォースの略。2021年6月に設立された。自然生態系の損失を食い止め、回復させる「ネイチャーボジティブ」な社会への移行に向け、自然関連リスクに関する情報開示フレームワークを提言として発表。
*2 TNFDが推奨する、企業が自然関連リスクと機会などを評価するためのフレームワークで、Locate（発見）、Evaluate（診断）、Assess（評価）、Prepare（準備）の頭文字をとっている。

サステナビリティブック2024 2種も公開中！株式会社ロッテ サステナビリティサイトはこちらから
<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/>